

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2026/7/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年8月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは7月31日（金）9:00現在
※休日の実績は前営業日

		7月30日現在	8月の予想 (月末値)		
USD	ドル・円 (円)	159.53	154.0	～ 166.0	160.0
	為替介入観測も、中長期的な円安の流れは不変				
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	1.153	1.12	～ 1.18	1.15
	ユーロ・円 (円)	183.91	179.0	～ 191.0	184.0
	ECBの利上げ観測がユーロを下支え				
GBP	ポンド・ドル (ドル)	1.347	1.32	～ 1.36	1.33
	ポンド・円 (円)	214.82	214.0	～ 220.0	212.8
	英国財政への警戒感から、英ポンドは対ドル・対円とも上値の重い展開				
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	112.10	110.0	～ 116.0	112.0
	NZドル・円 (円)	93.78	92.0	～ 97.0	95.0
	豪ドルは中立金利水準に近づき上値重く、NZドルは金利先高観強く底堅い動きとなろう				
株式 相場	日経平均 (円)	61,867	63,000	～ 70,000	68,000
	幅広い業種の上昇を展望				
	NYダウ (ドル)	52,208	51,000	～ 54,000	53,000
長期 金利	ハイテク株主導の上昇を展望				
	日本 (%)	2.813	2.60	～ 2.95	2.75
	財政懸念は金利上昇圧力となるが政府のサポートが一定の歯止め				
	米国 (%)	4.673	4.20	～ 4.60	4.50
	理論・定性両面から、長期金利は変動余地に乏しい				

◆ 今月の注目ポイント

9月利上げを占う日米物価指標と日本財政論議に注目

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
日米経済指標	◎	【9月利上げの有無を占う】9月の日米金融政策会合での利上げの有無を巡り、CPIなどインフレ関連指標を中心に経済指標が注目される。イラン情勢の悪化を受けた原油価格上昇が遅れて物価へ波及すれば、追加利上げ観測が高まる可能性がある。8/27～29の米ジャクソンホールでは、FRBの年後半の政策運営や5つのタスクフォースの議論を踏まえた政策メッセージが示されるかが焦点となろう。
日本財政論議	○	【日本国債の需給懸念がどの程度高まるか】「骨太2026」で示された方針を踏まえ、概算要求基準の閣議了解や各省庁の概算要求を通じて、歳出拡大がどこまで容認されるかが焦点となる。高市内閣の積極財政姿勢が意識されれば、国債増発観測を背景に長期金利の上昇圧力が強まる可能性がある。また、GPIFの4～6月運用実績では、日本国債への投資拡大がどの程度進んだかにも注目。国内債券比率の上昇が確認されれば、国債需給の改善期待につながろう。

◆ アジア通貨見通し

	7月30日現在	8月の予想 (月末値)		
人民元・円	23.64	22.70	～ 24.50	23.50
バーツ・円	4.776	4.65	～ 4.90	4.75
ルピア・円	0.881	0.86	～ 0.92	0.90

◆ 今月の重要日程

4日 (火) 日 10年債入札	17日 (月) 日 4-6月期GDP(1次速報)
5日 (水) 日 決定会合議事要旨(6/15,16)	17日 (月) 中 7月生産・小売・投資
7日 (金) 米 7月雇用統計	19日 (水) 米 FOMC議事要旨(7/28,29)
12日 (水) 米 7月CPI	21日 (金) 日 7月CPI
12日 (水) 米 10年債入札	25日 (火) 米 2年債入札
14日 (金) 欧 ユーロ圏4-6月期GDP(1次速報)	28日 (金) 日 2年債入札

◎注意事項をよくお読み下さい

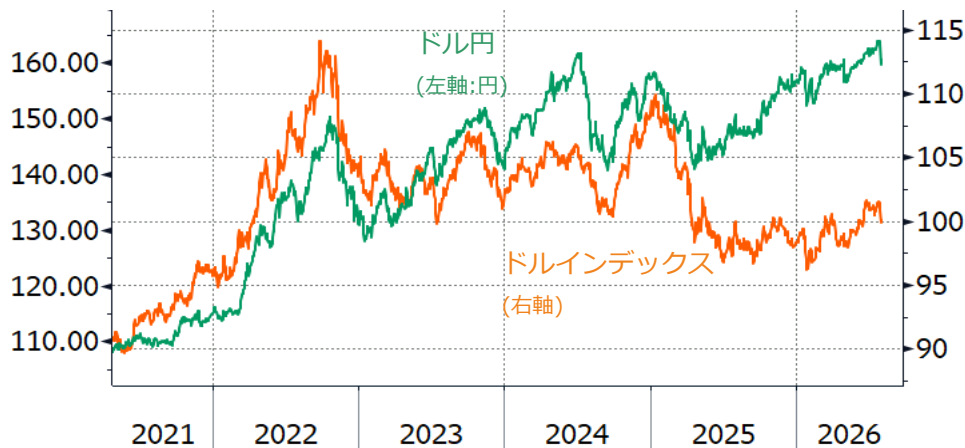
2026/7/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年8月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



出所：Bloomberg

米ドル円

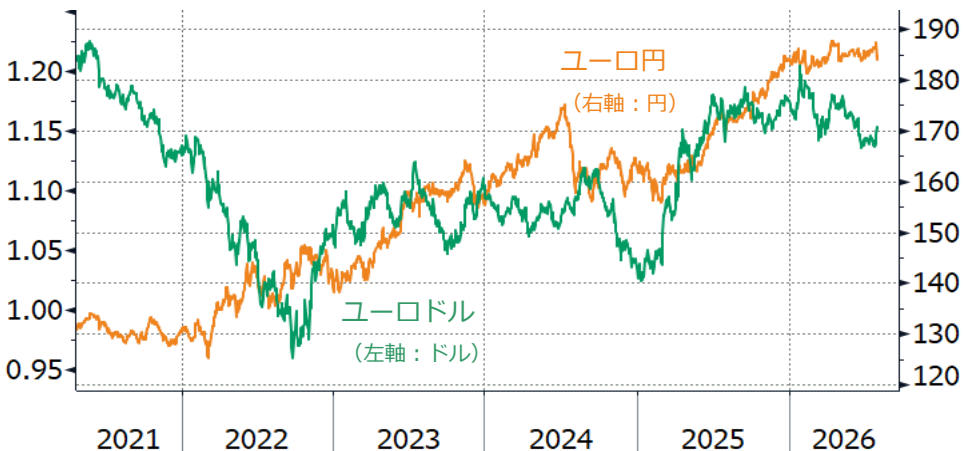
154.00 – 166.00円

為替介入観測も、中長期的な円安の流れは不変

7月のドル円は162円前後で始まり、月前半は米国の高金利長期化観測や中東情勢の緊迫化に伴う原油高、日本の積極財政への警戒を背景に円安基調が続いた。米物価上昇率の鈍化で一時的に円が買われる場面もあったが、日米金利差と日本の交易条件悪化が意識され、下旬には一時163円99銭と約40年ぶりの円安水準を付けた。ただ、30日のニューヨーク市場では、米GDPの減速や物価上昇率の鈍化によるドル売りに、日本当局による円買い介入とみられる動きが重なり、ドル円は一時157円台まで急落した。米当局がレートチェックを行ったとの報道もあり、日米が円安抑制で連携するとの警戒が急速に強まった。

8月は160円前後を中心に推移する展開を想定する。追加介入の可能性が強く意識されるため、当面はドル円の上値が抑えられやすい。日銀が追加利上げに前向きな姿勢を示した場合や、米雇用・物価指標が下振れた場合には、短期的には更に円高が進む可能性もある。一方、日米金利差や原油高、日本の財政懸念という構造的な円安要因は不変であるため、為替介入による円高は時間稼ぎの効果しか持たず、中長期的にみれば再び円安方向に推移することを想定している。

ユ ー ロ



出所：Bloomberg

ユーロドル

1.12 – 1.18ドル

ユーロ円

179.00 – 191.00 円

ECBの利上げ観測がユーロを下支え

7月のユーロは、対ドルでは1.13～1.15ドル程度で推移した。月前半はユーロ圏の物価鈍化や景気への懸念が上値を抑えたが、ECBが7月会合で政策金利を据え置きつつも9月の追加利上げに含みを残したことや、ユーロ圏の4～6月期GDPが予想を上回ったことが下支えとなった。月末には、FOMCの政策金利据え置きに加え、米GDPの減速と物価上昇率の鈍化を受けてドルが売られ、ユーロドルは1.15ドル台へ上昇した。対円では、次第に187円近辺まで上昇したものの、30日の円買い介入観測を受けて円が全面高となり、ユーロ円も一時182円台まで急落した。

8月のユーロは、対ドルでは底堅く推移するとみる。ECBの追加利上げ観測と米利上げ観測の後退がユーロを支える一方、原油・天然ガス高による景気悪化懸念が上値を抑えよう。対円では185円を中心とする推移を想定する。ユーロ自体は買われやすいものの、短期的には日本当局による追加介入への警戒や日銀の利上げ観測が円の下支えとなろう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

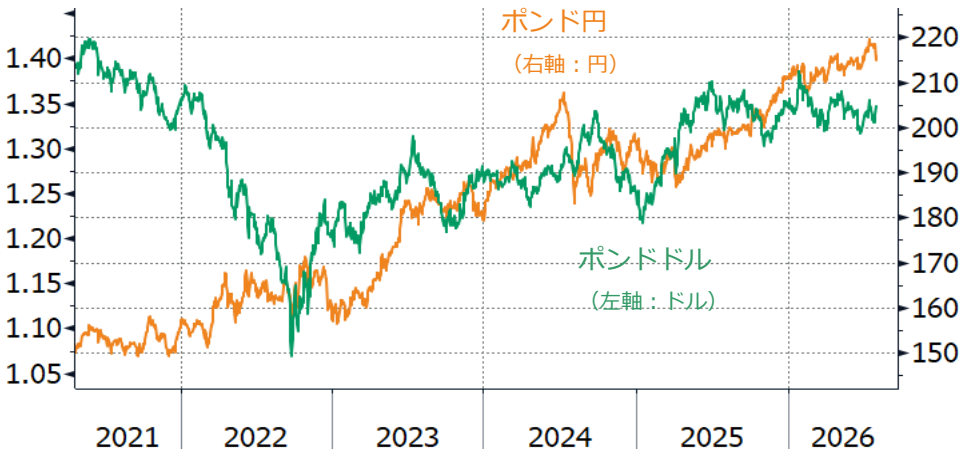
◎ 注意事項をよくお読み下さい

2026/7/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年8月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し② 為替（ポンド・豪ドル・NZドル）

ポ ン ド



出所：Bloomberg

ポンドドル

1.32 – 1.36ドル

ポンド円

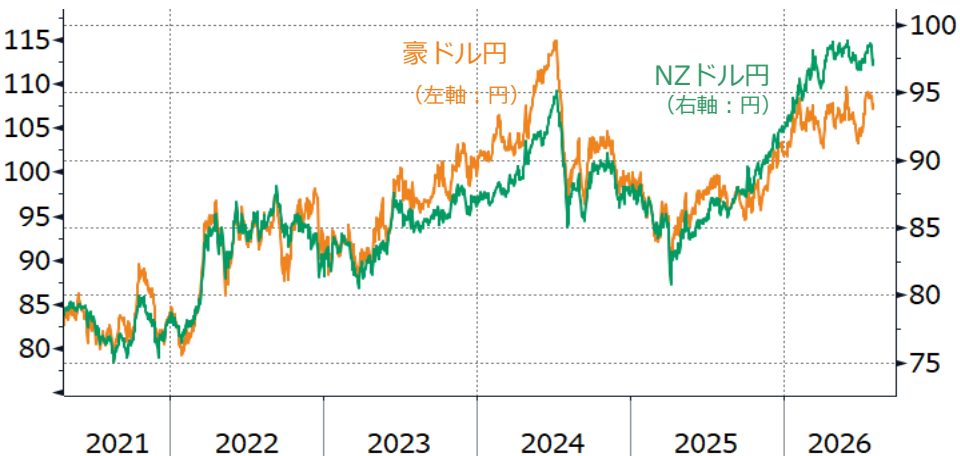
214 – 220円

英国財政への警戒感から、英ポンドは対ドル・対円とも上値の重い展開

7月の英ポンド相場は、対ドルで堅調推移後、月末にかけて上げ幅縮小し、対円で堅調に推移した。背景としては新財務相を巡る思惑。財政規律を重視するマフムード内相が起用されるとの報道もあり、今年5月以来の水準に上昇する場面も見られた。しかし、結局国防費の増額を強く主張するヒュー氏が就任。財政拡張路線への警戒感から、徐々に上げ幅を縮小させた。一方、対円では円買い介入と見られる動きに急落する場面も見られた。

8月の英ポンド相場は軟調な展開を予想する。8月から9月にかけて財務省・各省庁による予算折衝が始まり、各種予算案の観測報道が出てくる。財政赤字の議論や英国債の増発観測が相次ぎ、英国財政に対するネガティブな材料がくすぶりやすい。英ポンドには売り材料となりやすい。対ドルでは下値を探る展開が予想される。一方、円については、イラン情勢の悪化に伴う円売りの動きが徐々に一巡すること、為替介入や利上げの思惑がくすぶりやすく、一旦は底入れの動きが見込まれる。英ポンドは対円でも上値の重い動きとなろう。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



出所：Bloomberg

豪ドル円

110.00 – 116.00円

NZドル円

92.00 – 97.00円

豪ドルは中立金利水準に近づき上値重く、NZドルは金利先高観強く底堅い動きとなろう

7月の豪ドルとNZドルは、対ドルで堅調に推移した。特にNZドルは、7月8日のNZ準備銀行会合で0.25%の利上げを実施し、政策金利を2.50%へ引き上げた。声明では追加利上げの可能性が示され、市場で金利先高観が一段と高まったことから、NZドルは主要通貨に対して上昇した。一方、豪ドルも、豪州の底堅い雇用環境やRBAの追加利上げ期待に加え、資源価格が底堅く推移したことから、対ドル堅調な展開となった。対円では円買い介入と見られる動きに月末にかけて上昇幅を縮小させた。

8月の豪ドルは上値の重い展開を見込む。RBAの利上げ期待は豪ドルを下支えするものの、政策金利は中立水準に近づいており、追加利上げ余地はNZ中銀ほど大きくない。加えて、中国景気の回復力がなお弱く、豪ドルの上値を抑える要因となろう。一方、8月のNZドルは引き続き底堅い展開を予想する。NZ中銀はインフレ警戒姿勢を維持しており、市場では9月会合での追加利上げ期待が根強く、NZドルの支援材料となろう。

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

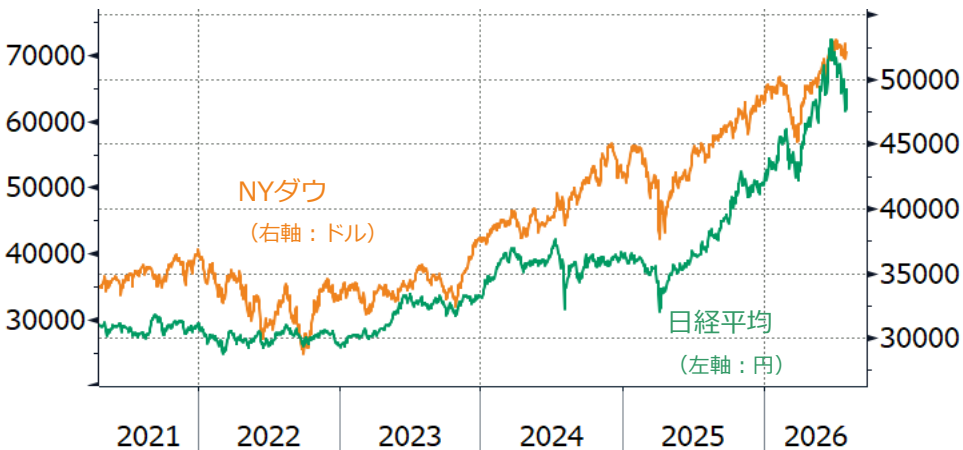
2026/7/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年8月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



出所：Bloomberg

日経平均

63,000 – 70,000円

幅広い業種の上昇を展望

韓国株の急落や一部投資家の売り煽りで米ハイテク株が調整したことを受け、日本株もそれにつられて下落した。しかし、マイクロソフトの決算が象徴するように、AIバブルという言葉は実態を反映していない。株価の急落局面こそ、ファンダメンタルズに即した冷静な判断が求められよう。そのファンダメンタルズに基づけば、中東戦争以降割安に放置された非ハイテク株と急落に見舞われたハイテク株、どちらにも投資妙味があり、今月は幅広い業種で上昇が期待できよう。

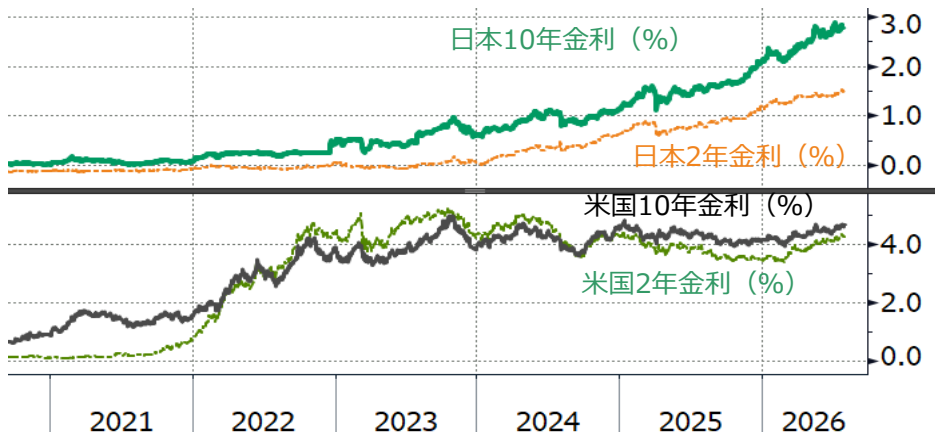
NYダウ

51,000 – 54,000ドル

ハイテク株主導の上昇を展望

基本的な見方は、日本株と同様である。より詳しくは、[2026年7月半導体市場及びハイテク株動向](#)を参照されたい。空売り投資家が、相場をかく乱することの是非はさておき、ハイテク株に絶好の買い場が訪れていることは指摘しておきたい。6月に高値をつけた時でさえ、ファンダメンタルズ上の割高感は無かった。ハイテク株中心に、決算は増収増益企業が多く、バリュエーションは一層魅力的となる。

長 期 金 利 見 通 し



出所：Bloomberg

日本国債10年

2.60 – 2.95%

財政懸念は金利上昇圧力となるが政府のサポートが一定の歯止め

7月は「骨太2026」を受けた財政悪化懸念から、10年国債利回りが一時2.9%台まで上昇した。しかし、その後はGPIFの国内債券投資拡大を巡る議論が浮上したことなどから、金利上昇は一服。8月も引き続き、来年度予算や国債発行計画を巡る思惑から金利に上昇圧力がかかりやすい。一方、GPIFの運用見直しや国内資産拡充への議論が継続するとみられ、金利上昇には一定の歯止めがかかる展開を見込む。

米国債10年

4.20 – 4.60%

理論・定性両面から、長期金利は変動余地に乏しい

米金利は4.20% – 4.60%程度がファンダメンタルズに基づく理論値である。ネルソン・シーゲルモデルによれば、短期金利は金融政策の見通し次第で大きく変動する余地があるものの、既に高止まりしている長期金利については、変動余地がほとんど残されていない。また、ウォーシュ議長が金利の上昇が利上げを代替しているかのような発言をしたため、金利低下は利上げ機運を高める可能性がある。すると、それが金利上昇に寄与するため、金利は高止まりする公算が大きい。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

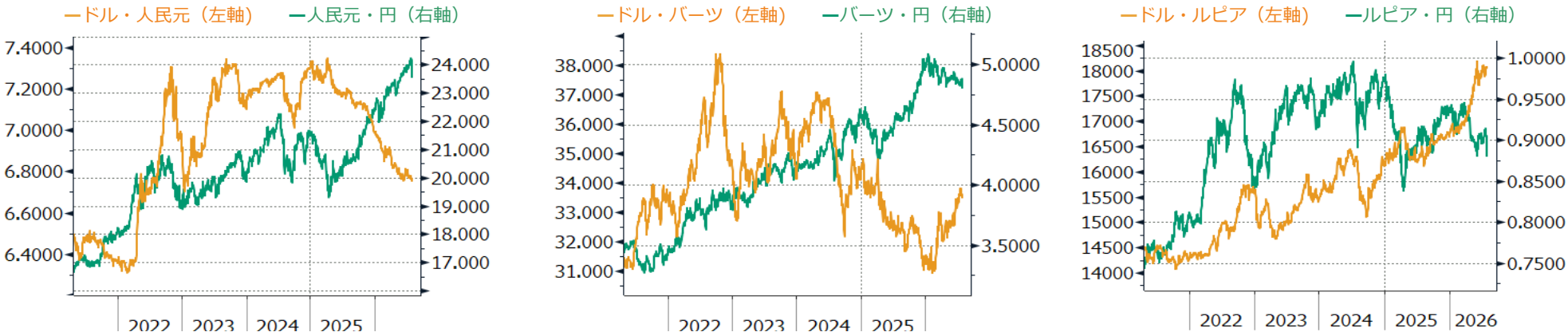
◎ 注意事項をよくお読み下さい

2026/7/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年8月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		8月の予想			見通し
中国	人民元/円	22.70	～	24.50	ドル高や日銀の利上げ観測が重しとなるも、人民銀行の元安抑制姿勢が下支え 7月の人民元は、イラン情勢の緊迫化を背景としたドル高や中国景気の先行き不透明感から対ドルで上値の重くなる場面も見られた。しかし、中国人民銀行（PBOC）が基準値の設定などを通じて過度な元安を抑制したこと から、下値は限定的。対円では円買い介入と見られる動きに急落した。8月もドル高や日銀の追加利上げ観測が 重しとなる一方、人民銀行も急激な元安を容認しないとみられ、対ドル・対円ともに一進一退の推移を予想する。
	ドル/人民元	6.72	～	6.80	
タイ	バーツ/円	4.65	～	4.90	輸出や観光への悪影響を回避するため政策金利は据え置き、対ドル・対円でバーツは軟調推移 7月のバーツ相場は軟調に推移した。イラン情勢が悪化し、有事のドル買いが優勢となったことや原油が堅調に推 移したことが背景。対円では円買い介入とみられる動きが入り急落した。8月も景気回復の勢いは限定的とみられ、 輸出や観光への悪影響を避ける観点から、タイ中銀は政策金利を据え置く公算が大きい。FRBの金融政策やド ル相場に左右されやすい展開が続くものの、観光収入や経常黒字が下支えとなるため、バーツは弱含みでの推移 を見込む。
	ドル/バーツ	33.0	～	34.0	
インド	100ルピア/円	0.86	～	0.92	通貨信認維持のための利上げを検討し、対ドル・対円でルピアは堅調推移 7月のルピア相場は中東情勢の悪化を受け軟調に推移したが、利上げ期待から、徐々にルピア買いが優勢に。し かし、インドネシア中銀が利上げを見送ったこともあり、月末にかけてルピア売りの動きが継続した。対円では円買い 介入観測もあり急落した。8月中銀の独立性のテーマがくすぶり、新総裁人事が注目材料。ルピアは安値圏にあ り、通貨信認維持のためにも利上げが検討される可能性が高い。8月のルピアは底堅い展開を予想する。
	ドル/ルピア	17,800	～	18,300	



出所：Bloomberg

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2026/7/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年8月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 年間為替見通し

		2026年						2027年						ポイント
		8～9月			10～12月			1～3月			4～6月			
ドル円	レンジ	150	～	170	150	～	170	155	～	175	155	～	175	中長期的には構造的に円安が進行しやすい状況が継続する。また、FRBの利上げ観測もあって日米金利差拡大が意識されやすい。
	期末値	160			160			165			165			
ユーロドル	レンジ	1.10	～	1.22	1.10	～	1.22	1.10	～	1.22	1.10	～	1.22	ドイツをはじめとするユーロ圏各国の財政拡張方針や米国からの資産逃避を受け25年春より急速にユーロ高となったが、足元ではFRBの利上げ観測などを受けやや軟調に推移。中東情勢が落ち着けば2027年にはECBの利下げ転換が見込まれ、ユーロはしばらく大きな上昇は見込みがたい時期か。
	期末値	1.15			1.16			1.16			1.16			
ユーロ円	レンジ	175	～	195	175	～	195	180	～	200	180	～	200	
	期末値	184			186			191			191			
ポンドドル	レンジ	1.30	～	1.36	1.28	～	1.34	1.28	～	1.34	1.28	～	1.34	英国の政局不安、財政懸念から不安定な展開が想定され、対円・対ドルで上値の重い展開を想定。FRBによる利上げ観測によりドルが強含みやすい展開を予想。対円では介入警戒や日銀の利上げ観測が上値を抑えよう。
	期末値	1.32			1.31			1.31			1.31			
ポンド円	レンジ	195	～	220	195	～	215	200	～	220	200	～	220	
	期末値	211			210			216			216			
ドル人民元	レンジ	6.70	～	6.95	6.75	～	6.95	6.80	～	7.00	6.80	～	7.00	当局によるレンジ内で安定を図る運営が続くとみる。足もとは元高を一定程度容認したように見えるが、当局が重視しているのは相場の安定。一方向の動きではないであろう。輸出や景気への配慮も踏まえると、対ドルでの一方向の元高はなくスピード調整は見られるであろう。
	期末値	6.80			6.85			6.90			6.90			
人民元円	レンジ	22.0	～	25.0	22.0	～	25.0	23.0	～	25.0	22.0	～	25.0	
	期末値	23.5			23.4			23.9			23.9			
豪ドル円	レンジ	107	～	116	107	～	116	108	～	118	108	～	118	豪中銀による追加利上げ姿勢維持は豪ドル円の下支えとなるが、中国景気減速もあり上値は重いであろう。
	期末値	110			110			112			112			
タイバーツ円	レンジ	4.60	～	5.00	4.60	～	5.00	4.50	～	4.90	4.50	～	4.90	景気の回復力が弱く、金融政策も景気下支えを意識した運営となっているため、対ドルでは上値の重い展開。成長率の鈍さが逆風となりやすい。
	期末値	4.80			4.80			4.70			4.70			

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2026/7/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年8月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他		日本	米国	その他
8/3(月)		7月ISM製造業景況指数	(中) 7月製造業PMI	8/17(月)	4-6月期GDP (一次速報値)	8月NY連銀製造業景気指数	(中) 7月生産・小売・投資
8/4(火)	10年債入札	6月製造業受注 6月貿易収支		8/18(火)	5年債入札	7月住宅着工・許可件数	(独) 8月ZEW景気指数
8/5(水)	6月毎月勤労統計 (速報) 日銀金融政策決定会合議事要旨(6/15 ~16開催分)	7月ADP雇用統計 7月ISM非製造業景況指数		8/19(水)	6月機械受注	20年債入札 FOMC議事要旨	
8/6(木)	30年債入札			8/20(木)	20年債入札 7月貿易統計	8月フィラデルフィア連銀製造業景気 指数	
8/7(金)	6月家計調査	7月雇用統計		8/21(金)	7月消費者物価指数		(欧) 8月PMI (速報値)
8/9(日)			(中) 7月CPI	8/24(月)			
8/10(月)	7月景気ウォッチャー調査			8/25(火)		2年債入札 7月新築住宅販売 8月消費者信頼感指数	(独) 8月IFO企業景況感指数
8/11(火)	(山の日)	3年債入札 7月中古住宅販売	(豪) 準備銀行理事会	8/26(水)		4-6月期GDP (改定値) 5年債入札 7月個人所得・消費支出	
8/12(水)		10年債入札 7月CPI		8/27(木)		7年債入札	
8/13(木)	7月企業物価指数	30年債入札 7月PPI		8/28(金)	2年債入札 7月労働力調査		
8/14(金)		7月小売売上高		8/31(月)	7月鉱工業生産 7月住宅着工件数		(中) 8月PMI

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2026/7/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年8月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス

りそな銀行上海駐在員事務所

【7/10～16】

◎ 各地の台風被害、保険金支払い 28.6 億元に

中国国営中央テレビ（CCTV）系の央視新聞によると、今月に入り中国各地で発生した台風や豪雨による保険会社の保険金支払額は、13 日午前 9 時時点で 28 億 6,000 万元（約 680 億円）に上った。対象地域は広西チワン族自治区、湖北省、浙江省などを含む 20 省・自治区・直轄市。管轄地域の保険会社への保険請求件数は 35 万件を超える。国内では 3 日から 4 日にかけて台風 10 号（アジア名：メイサーク）、11 日深夜に台風 9 号（アジア名：バービー）が上陸。一部地域では豪雨の影響による洪水や台風に伴い竜巻が発生するなど甚大な被害が出ていた。各地の被害状況を受け、国家金融監督管理総局は 9 日、保険機関に対して迅速な査定と支払窓口の開設を求めた。

【7/17～23】

◎ 欧州猛暑で中国エアコン躍進、現地仕様と供給力、商機つかむ

欧州で続く記録的な熱波を背景に、中国のエアコンメーカーが存在感を高めている。中国税関総署によると、2026 年上半期（1～6 月）の欧州連合（EU）向けエアコン輸出額は前年同期比 43.2%増の 37 億 6,000 万米ドル（約 6,100 億円）と過去最高を更新した。現地ニーズを捉えた製品開発力と迅速な供給体制が、中国メーカーの競争力を押し上げている。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2025/8	2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3	2026/4	2026/5	2026/6
実質GDP成長率	%	-	4.8	-	-	4.5	-	-	5.0	-	-	4.3
消費者物価上昇率	%	-0.4	-0.3	0.2	0.7	0.8	0.2	1.3	1	1.2	1.2	1
都市部調査失業率	%	5.3	5.2	5.1	5.1	5.1	5.2	5.3	5.4	5.2	5.1	5.0
輸出額	10億ドル	321.3	328.1	304.9	330.0	357.2	356.6	299.8	321.0	359.2	376.4	412.4
輸入額	10億ドル	220.3	239.4	216.9	220.1	245.3	236.0	209.9	271.0	274.6	271.2	286.8
経常収支	100万ドル	-	491,201	-	-	735,022	-	-	184,300	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,322.2	3,338.7	3,343.3	3,346.4	3,357.9	3,399.1	3,427.8	3,342.1	3,410.6	3,442.2	3,416.3
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.17	7.13	7.12	7.11	7.04	6.97	6.91	6.90	6.84	6.79	-

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎注意事項をよくお読み下さい

2026/7/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年8月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○3Dプリンターが家庭へ浸透

ここ数年、3Dプリンターの精度向上や操作性の改善、材料価格の低下を背景に中国製3Dプリンターが家庭向け市場へ急速に浸透しており、「3Dプリンティングブーム」が起きています。

3Dプリンティングは目新しい技術ではなく1980年代から存在し、当初は主に工業分野で活用されていました。しかし、2022年に深セン拓竹科技有限公司（バンブーラボ）が製品第1号となる高速スマート3Dプリンター「X1シリーズ」を発売したことが、大きな転機となりました。同製品は多くの重要な性能で評価を獲得し、3Dプリンティングを一気に工業用から家庭用へと広げました。価格はメーカーにもよりますが、一般的に2,000円～4,000円（約48,000円～96,000円）の間です。手ごろな価格と高度な技術を誰もが利用できるものにしたことで、家庭への普及を後押ししています。

SNSを見ると、多くのユーザーが3Dプリンティングを通じて、想像力あふれる自由なクリエイティビティを形にしています。その中には、目新しいデザインの玩具もあれば、便利で実用的な生活用品もあります。3Dプリンティングは、単に物を作るだけでなく、これまで手に入りにくかったり見つけることが難しかったデザインを現実のものにできる機会を提供しています。

国家統計局によると、2026年1月～4月にかけて、3Dプリンター生産台数は前年同期比で50.9%増加し、伸び率は他の主要工業製品を大幅に引き離しました。輸出を見ると、2025年の輸出台数は前年比33.2%増の503万台、輸出総額は同39.1%増の113億5,400万円（約2,715億円）に達し、初めて100億元を超えました。2026年第1四半期（1-3月）の輸出台数は前年同期比119%増と急増しており、デジタルカメラと並び海外で広く人気を集める製品となっています。現在、国内には十数社以上の主要ブランドが存在し、産業集積の効果も顕著です。新たなブランドも次々と市場参入が相次いでいます。



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2026/7/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年8月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆ 2026年5月のタイ経済、前月と横ばい

- ・タイ中央銀行の報告によると、2026年5月のタイ経済は前月とほぼ横ばいで推移した。
- ・製造業：工業生産指数は、財輸出の減少に伴い前年同月比▲0.8%となり、前月の▲0.9%からわずかに改善した。海外需要の鈍化により自動車（特にピックアップトラック）の生産が減少したことが製造業全体の低迷に影響を与えた一方で、電子部品、プリント基板（PCB）、半導体、エアコンなどの生産は堅調であり、製造業の落ち込みを一部補う要因となった。
- ・民間消費：民間消費は前年同月比+2.7%と、前月の+1.4%から増加した。半耐久財への支出以外はすべて増加した。特に、EVへの乗り換えが進む中で耐久財への支出が増加した。また、サービス部門では、ホテルや飲食店を中心とした観光関連活動も改善した。
- ・民間投資：民間投資は前年同月比+14.8%と、前月の+11.1%からさらに加速した。機械・設備投資と建設投資の両方が拡大したことが要因。

◆ 2026年5月の輸出額、23カ月連続で増加

- ・タイ商務省によると、2026年5月の輸出額は前年同月比+10.6%の約5兆5,600億円相当に達した。これで23カ月連続の増加となったが、前月の+23.1%からは鈍化した。輸出の伸びは、AI・データセンター投資の世界的拡大を背景に、コンピューター・同部品等電子製品の輸出が引き続き好調だったことが主な要因。品目別では、主要工業製品が+14.4%と堅調だった一方、農産物・加工品は▲7.2%と減少した。
- ・主要な輸出先では、米国+33.5%、日本+11.7%、欧州連合+18.4%、ASEAN（5カ国）+29.7%といずれも伸びた。一方、中国▲2.5%、中東▲4.4%、インド▲10.3%といった市場では減速した。
- ◆ 電動車関連投資、累計承認額1,370億パーツに到達
- ・タイ投資委員会（BOI）の発表によると、2026年5月時点で電動車関連の投資申請承認額が累計1,370億パーツ（約6,700億円）を超え、198プロジェクトに達した。内訳は、電気自動車（BEV）生産が18事業（395億パーツ）、ハイブリッド車（HEV）生産が7事業（299億パーツ）、プラグインハイブリッド（PHEV）生産が7事業（94億2,900万パーツ）等。

主要経済指標

＜月次データ＞

項目	単位	2025/8	2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3	2026/4	2026/5	2026/6
実質GDP成長率	%	-	1.2	-	-	2.5	-	-	2.8	-	-	-
消費者物価上昇率	%	-0.8	-0.7	-0.8	-0.5	-0.3	-0.7	-0.9	-0.1	2.9	2.8	2.4
失業率	%	0.9	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.9	0.9	0.9	-
輸出額	100万ドル	27,850	31,000	28,915	27,514	29,015	31,573	29,440	35,157	31,583	34,333	-
輸入額	100万ドル	29,666	29,444	32,113	30,026	29,099	34,876	32,273	38,497	41,604	40,044	-
経常収支	100万ドル	-418	2,174	-1,914	-1,609	3,094	533	2,116	582	-7,790	-6,432	-
外貨準備高	10億ドル	267.4	273.3	272.0	274.7	281.9	289.6	293.9	280.5	287.0	287.5	279.2
主要政策金利	%	1.50	1.50	1.50	1.50	1.25	1.25	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
対ドル為替レート	パーツ	32.5	32.0	32.6	32.4	31.5	31.3	31.2	32.3	32.3	32.5	-

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レポ金利

出所：Bloomberg

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2026/7/31

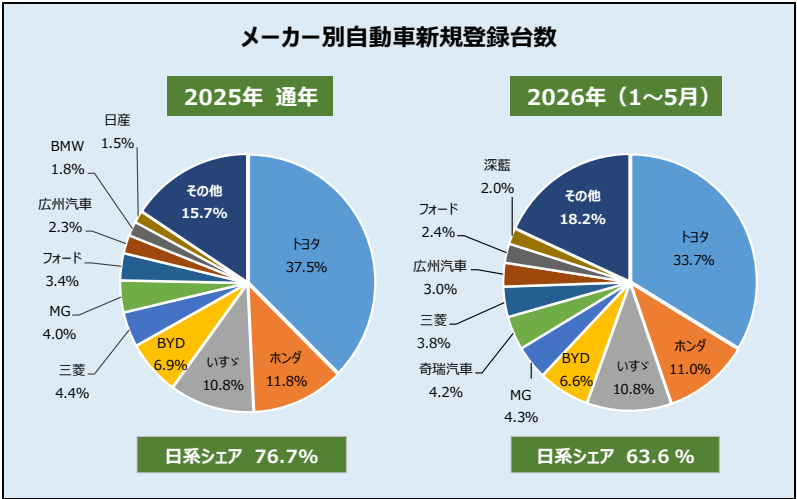
りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年8月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

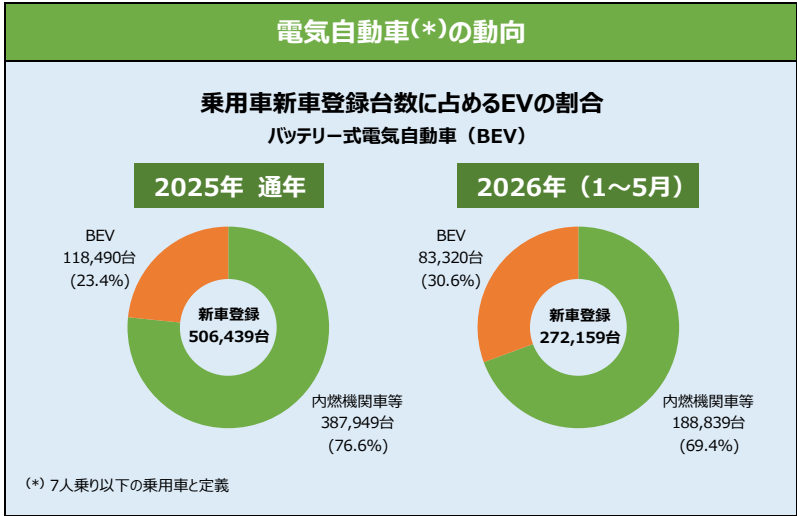
タイにおける自動車産業の動向

生産・国内販売・輸出の動向								
		2023年	2024年	2025年	2026年 (1～5月)	前年同期比 (%)	5月	
【台数】								
四輪	生産台数	乗用車	648,803	558,440	550,456	204,054	95.5	47,455
		商用車	1,192,883	910,557	905,113	392,767	103.1	75,821
		合計	1,841,686	1,468,997	1,455,569	596,821	100.4	123,276
	国内販売 台数	乗用車	292,505	224,148	239,236	102,937	104.9	19,389
		商用車	483,275	348,527	381,930	185,305	119.9	38,376
		合計	775,780	572,675	621,166	288,242	114.1	57,765
輸出台数		1,117,539	1,019,213	935,750	339,618	91.5	59,434	
二輪	生産台数		2,120,738	1,887,208	1,972,902	836,824	96.6	187,591
	国内販売台数		1,856,814	1,683,239	1,711,846	775,325	103.1	169,724
	輸出台数		822,608	938,762	893,198	401,739	108.5	81,396
【完成車輸出金額】（百万パーツ）								
四輪		719,992	699,163	621,662	230,948	89.9	41,723	
二輪		68,589	63,969	61,596	28,568	107.2	5,478	

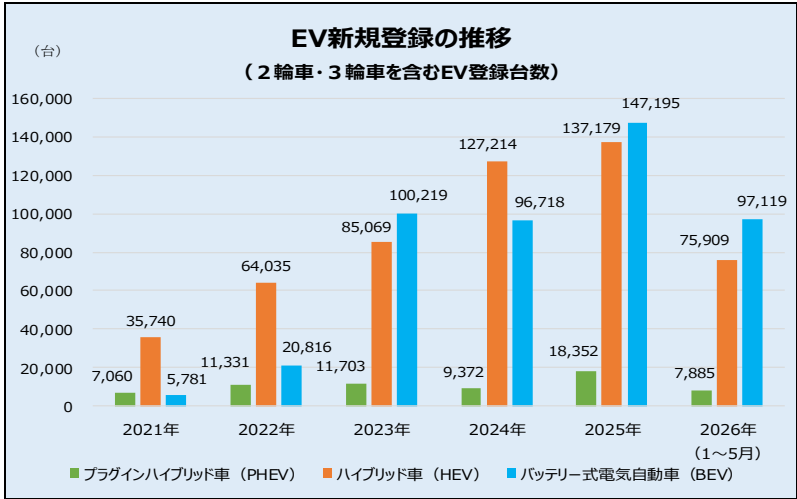
出所：タイ工業連盟 (FTI)



出所：タイ運輸省陸上運送局のデータを基に作成



出所：タイ運輸省陸上運送局のデータを基に作成



出所：タイEV協会、タイ運輸省陸上運送局